科目名称	薬理学	学年学期	単位数	時間数
		1 学年後期	1	30
担当教員	田中　守	授業に関わる実務経験	■ 有 （ 薬剤師 ） □ 無	

【1】 授業概要

薬理学の基礎知識と薬物療法について学び、薬物療法を受ける患者の安全対策を学ぶ。

【2】 学習目標

1. 薬理学の基礎知識を理解し、医薬品の健康障害について理解できる。
2. 健康障害に対する薬物療法の作用機序、人体への影響について理解できる。
3. 薬物の管理、看護者の責任について理解できる。

【3】 第 2 看護学科ディプロマポリシーとの関連性

■ 1. 生活者としての人間の理解
■ 2. 人間の生命、尊厳、権利を尊重した判断・行動
■ 3. 多様な価値観、共感的態度、倫理に基づいた看護実践
□ 4. 科学的根拠に基づいた看護実践
■ 5. 多職種との連携・協働
□ 6. 地域医療の理解と生活の支援
■ 7. 自己の資質向上のための主体的な学び

【4】 授業計画

	内容	主な授業形態
1	薬理学総論（1）	講義・小テスト
2	薬理学総論（2）	講義・小テスト
3	抗感染症薬	講義・小テスト
4	がん治療薬	講義・小テスト
5	免疫治療薬、抗アレルギー薬 、抗炎症薬　他	講義・小テスト
6	末梢での神経活動に作用する薬物	講義・小テスト
7	中枢神経系に作用する薬(1)	講義・小テスト
8	中枢神経系に作用する薬(2)	講義・小テスト
9	循環器系に作用する薬物(1)	講義・小テスト
10	循環器系に作用する薬物(2)	講義・小テスト
11	呼吸器・消化器・生殖器系に作用する薬物	講義・小テスト
12	物質代謝に作用する薬物	講義・小テスト
13	皮膚科用薬・眼科用薬	講義・小テスト
14	救急の際に使用される薬物 、漢方薬 消毒薬救急に用いられる薬物	講義・小テスト
15	筆記試験・まとめ	

【5】 評価方法

毎回の講義中に行う小テスト、授業態度および最終試験をもって総合評価（100 点満点）する。（小テストは 6 割の正解で 1 点、7-8 割以上の正解で 1 .5 点、9 割以上の正解で 2 点を得点する）

総合評価で 60 点に達しなかったものは再試験とする。

【6】 教科書

吉岡充弘:系統看護学講座　専門基礎分野　疾病のなりたちと回復の促進[3]　薬理学(第 15 版)　医学書院　2023

【7】 参考書

参考書は指定しない

【8】 受講生へのメッセージ

臨床現場で看護に必要な事例をまじえながら、薬物の特徴、薬理作用、薬物が人体に与える影響など薬の知識について教授する。薬理学を学ぶことによって、与薬などを確認する行為が重要かを理解できる。